

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	15-034	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Risk factors for alcoholism in the Oklahoma Family Health Patterns project: Impact of early life adversity and family history on affect regulation and personality Oklahoma Family Health Patterns project でのアルコール依存に関与するリスク要因：感情制御や個性に対する早期の人生での困難や家族歴への影響		
執筆者		
Kristen H. Sorocco, Nathan C. Carnesa, Andrew J. Cohoon, Andrea S. Vincentd, William R. Lovallo		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2015 May 1;150:38-45. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2015.02.001.		
キーワード		PMID
人生の困難, 家族歴, アルコール依存, 感情制御, 個性		25813267
要 旨		
<p>目的： この研究ではアルコール依存症の家族歴の有り(FH+)と無し(FH-)が、人生の早期において、感情制御や個性に対する人生での困難(ELA)に影響するかどうかを評価することを目的とし、アルコールや他の物質乱用の危険がある若い世代（18歳から30歳）の長期間研究に参加した健康人に対して研究を実施した。</p> <p>方法： ELA は低社会経済状況、精神的や性的な虐待、あるいは 16 歳までの家族からの切離を 0 点から 3 点以上と区別した総合点で判断された。不安定な感情制御や個性の変容は自記式により調査された。</p> <p>結果： 高い ELA スコアは家族歴あり($\chi^2=109.2$, $P<0.0001$)と女性($\chi^2=17.82$, $P=0.0019$)に有意に多かった。また、高い ELA スコアはより情緒不安定でより落ち着きがなくなる傾向を示し、FH+の人では感情制御に乏しく、抑うつ気分となり、ELA スコアに関係なくアルコールや薬物乱用の危険性が高くなる傾向があった。ELA は先行研究の通り、ストレスに対する反応性の減弱や衝動的行動に対する抑制力の低下を予測することが考えられた。</p> <p>結論： この研究では FH+は感情制御に乏しく、反社会的な特徴に関連することが導かれた。FH+の人に ELA が多いことにより、アルコールや薬物の危険な使い方がアルコール依存のリスクをあげることと同様であることが示唆される。アルコール依存に対する遺伝的あるいは環境的な要因に対する更なる研究が必要と考える。</p>		